

手をつなぎ、
住み続けたい
まちづくりに向けて



世代を超えて、地域・学校の協働による

ひらつかスタイル

新しい学社連携に向けて —「平塚スタイル」で地域教育力のつながりを考える

平成28・29年度平塚市社会教育委員会議

平成28・29年度平塚市社会教育委員会議で、平塚市のシティプロモーションスローガン「選ばれるまち・住み続けるまち」を実現するため、平塚市らしい地域学校協働活動について協議されました。平塚市の特色である“ほぼ1小学校区に1館ある「公民館」”と、20年の歴史があり地域学校協働活動の優良例としても紹介されている「平塚市地域教育力ネットワーク協議会（通称：教育力ネット）」と「学校」の三者を地域学校協働活動の主体として進めていくべきであるとの報告書がまとめられました。これを踏まえ、「ひらつかスタイル」について紹介します。



学校 + 公民館 + 教育力ネット = 地域学校協働活動 ひらつかスタイル

社会教育・学校教育を取り巻く変化

▼地域と学校の協働体制の構築に向けた変化

少子高齢化の進展、地域社会のつながりや支え合いの希薄化等による地域の教育力の低下や学校が抱える課題の複雑化・困難化など、学校や家庭だけでは、対応しきれない状況になっているため、学校と地域が相互に連携・協働し、社会総掛かりで未来を担う子どもたちを育成するとともに、地域の教育力を向上し、地方創生の実現を図ることが重要。

▽平成27年 中央教育審議会 答申

地域全体で子供たちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」の推進等が提言。

▽平成28年 文部科学省

「次世代の学校・地域」創生プランを策定。

▽平成29年 社会教育法の改正

法律に基づき、地域学校協働活動の推進(連携協力体制の整備、情報共有・助言)が教育委員会に求められることに。

▼社会教育(地域拠点としての公民館)に係る変化

▽平成29年 文部科学省「公民館の現状と課題」

公民館を含む社会教育行政の再構築の必要性や住民と行政の協働による課題解決の重要性が示された。

地域活性運営協議会(仮)の 方向性

地域住民・団体等によるゆるやかなネットワーク

- 各種団体の「組織力(一丸となる結束)」のネットワーク化
- 地域住民の「市民力(自主性を持った行動)」のネットワーク化
- 「継続と選択」のネットワーク化

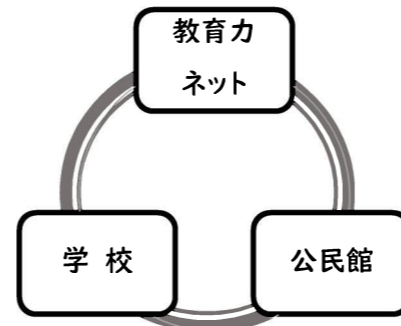
地域活性運営協議会(仮)の果たしていく 役割

地域コミュニティの活力を整え、高めていくプラットフォーム

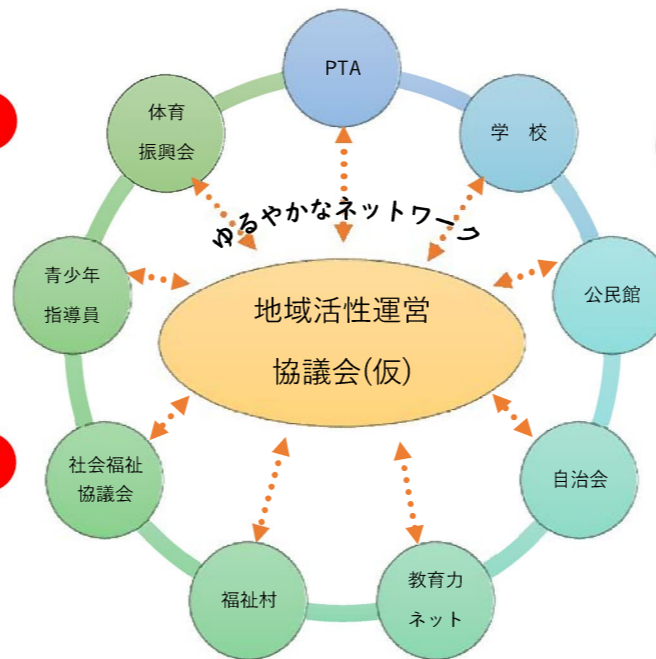
- 想い・価値・目標の共有と継承
- 活動の協議・調整・合意・実践(PDCA)
- 多団体・多世代連携による協働(より多くの地域住民の参画)

地域学校協働の基本構成

教育力ネットは「平塚市における地域学校協働活動の主体と再定義」(平塚市社会教育課)し、平成31年度より委託契約書を改訂しました。



地域活性運営協議会(仮)のイメージ図



平成18・19年度 平塚市社会教育委員会議提言

「これからの公民館のあり方について」の中で、今後さらに公民館活動を活発にしていくため、公民館主事による「コーディネート機能の強化」と「地域課題を解決する機能」として、学校・家庭・地域が協働し子どもの育成に取り組む「教育力ネット」との連携が打ち出されている。

平成28・29年度 平塚市社会教育委員会議提言

「平塚の強みを活かした取り組み」では小学校区に1館ずつの地区公民館設置という、他市にはあまり例を見ない公民館活動の充実がある。また、20年の歴史を持つ教育力ネットが市内15の中学校区に設置され、充実した取り組みが行われている。このような社会的財産を活用し、地域の学校・教育力ネット・公民館を中核に据え、「平塚スタイル」の学社連携・協働による人のつながりを生み、地域の活性化、社会性の向上を図るシステムの構築を目指すことが重要になると考えた。この学社連携・協働を機能させるには、参加するスタッフのコーディネート力の強化が求められる。公民館主事のコーディネート力を大いに活かす「地域活性運営協議会(仮)」を地域ごとに立ち上げていく「平塚スタイル」を模索していくことは、意義あることと考える。

取り組みの場 市内の各地区における“地域運営”

会議の中心は、教育力ネットや自治会など地域によってさまざま

□浜岳地区 浜岳地区教育力ネットワーク協議会
地域の各種団体の代表者が年6回一同に会して、学校行事や地域行事等の情報交換を行い、団体間の情報を共有し、団体間の連携を深めるきっかけになっている。

□横内地区 横内地区子どもサポートネットワーク協議会
「横内子どもサポートネットワーク協議会」は連合自治会や公民館を初めとした約30団体のメンバーで構成され、年4回地域活動団体の情報共有や地域課題に対応するための話し合いを行っている。

□花水地区 花水地区団体長連絡協議会
連合自治会・公民館が中心となって、「花水地区団体長連絡協議会」は活動している。花水地区の課題を地域の各種団体と連携・協力しながら解決するため、団体長連絡協議会を年に5回開催している。

□四之宮地区 四之宮地区団体連絡協議会
連合自治会・公民館が中心となって、「四之宮地区団体連絡協議会」は活動している。四之宮地区の課題を地域の各種団体と連携・協力しながら解決するため、団体連絡協議会をおおむね3か月に一度開催している。

みなもと 源は、地域力

地域・社会を取り巻く環境の変化を「わがごと」として再認識し、地域の課題解決と活力を高めていくエネルギーは、各種団体の組織力と地域住民の市民力を合わせた「地域力」である。将来に向け、地域の目標やビジョンの共有、また、目標達成の手段(行事はその一つ)の再整理をしつつ企画・実践していく場として、地域の特徴にあった地域活性運営協議会(仮)を構築していく!



▲浜岳地区代表者会議の様子



ひらつかスタイルの構築



4 つの基本方針

- 地域の安全・元気を継承していける地域主導型の持続的な仕組みづくりと運営
- 地域の課題を地域のみんなで共有していく場、組織づくり
- 成長時代に増加した団体、組織、会議の再編（時代にあった再構築）
- つらい感から楽しい感への自主転換

● 仕組みづくり ●

トップダウン型からフラット型へ

- 地域の各種団体の協議・調整の場の再構築
※地域活動推進会議、教育力ネット会議、公民館運営委員会等
- 負担感軽減のために役員主導からサポート・協働
※老若男女を受け入れる体制の整備、大人も子どもも楽しめるサポート活動
- 地域情報局、SNSの活用、FM局の番組などを使った情報発信
※幅広い世代の参画

● 活動 ●

「わがまち愛」の醸成、世代を越えた継承わがまち愛

- 地域の歴史、祭り、いいところ、防災、ヒヤリハット等の学び、再発見、再認識
※わがまち読本、わがまち歌、まちぐるみ防災訓練、まち歩き等
- 継続行事の見直し、再整理によるスリム化
※地区レクと子供大会の合同等
- 学校行事と地域行事の連携
※防災訓練、まちぐるみ地域清掃等

● 担い手・人材 ●

年功序列型から多世代連携型へ

- 地域のコーディネータカ・マネジメント力の向上
※地域づくり市民大学等
- 地域デビューの機会の活用
※パパ・ママの会、サポーターズポイントの導入

体制支援

公民館主事、学校地域連携担当、自治会、教育力ネット担当者を中心とする連携事務局機能の拡充
大人の居場所づくり(サロン・語り場など)、子どもの居場所づくり
行政側の縦割り支援から、横断支援へ(再編した地域自主活動への積極的支援)
役員定数の見直し
幅広い市民参加のためのサポート制度の導入

